高等学校　地理歴史科　日本史Ｂ　学習指導案

授業者：小牧南高等学校　教諭　石川　直大

1　日時・場所　　平成 29 年 11 月 14 日（火）第５限　　社会科教室

2　学級　　２年１組（日本史Ｂ）男子 10 名　女子 17 名　計 27 名

3　単元名　　第３章　貴族政治と国風文化

4　単元の目標

（１）律令制から脱却し、新たな政治体制として登場した摂関政治の仕組みと背景について理解する。

（２）国際関係の変化により、遣唐使を廃止した後、日本人の心情や嗜好を加味して発達した国風文化の登場と特徴を、時代の流れを踏まえて理解することができる。

（3）武士の登場について、当時の世相を踏まえて理解することができる。

5　単元の指導時間

（１）単元の配当時間

1　摂関政治　　３時間

2　国風文化　　２時間（本時１／２時間）

3　地方政治の展開と武士　　４時間

（２）単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
律令制度が崩壊していく過程を踏まえて、中央政治の在り方の変化、地方政治の実体、その中で生まれた文化について意欲的に探求しようとしている。	東アジア情勢の変化を踏まえた上で、律令制度の崩壊から武士の登場までの流れを、理論立てて文章化することができる。	藤原氏の系図や荘園史料、国風美術に関して、史料や図版からこの時代の特徴を引き出し、当時の世の在り方を考察できる。	律令制の崩壊から武士の登場までの通史を理解し、その知識を身につけようとしている。

（３）指導と評価の計画（９時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次（３時間扱い）	【ねらい】律令制から脱却し、新たな政治体制として登場した摂関政治の仕組みと背景について理解する。					
	・天皇家との結びつきを強める藤原北家の台頭について、系図を用いて理解する。		●		●	・薬子の変以後の藤原北家の台頭を、他氏排斥事件から理解し、摂関・関白の設置を系図を踏まえて説明できる。（発問）
	・藤原北家の栄華を、摂関政治という制度の側面から理解するとともに、史料などからその様子を知る。			●	●	・藤原道長・頼通父子の政治手法について史料や系図から読み取ることができる（プリント・発問）
	・東アジア諸国の盛衰を理解し、それが当時の日本に与えた影響を知る。		●		●	・東アジア諸国の盛衰について地図上で把握し、日本に与えた影響について理解できる。（プリント）
第二次（２時間扱い）	【ねらい】国際関係の変化により、遣唐使を廃止した後、日本人の心情や嗜好を加味して発達した国風文化の登場と特徴を、時代の流れを踏まえて理解することができる。					
	・遣唐使の廃止が日本の文化に大きな影響を与えたことを知り、そこから生まれた文化を実際に史料から読み解く。		●			・当時の史料に触れ、歴史的な探究心を持ち、文化の特徴について理解する。（プリント・グループワーク・発表）
	・当時の世相と人々の死生観について図版などから考察し、浄土教の登場した背景について説明する。	●	●			・生活に身近な事象から、当時の人々の死生観について知り、背景も含めて論理立てて文章化し、それを他人と共有する。（プリント・グループワーク・発表）
第三次（４時間扱い）	【ねらい】武士の登場について、当時の世相を踏まえて理解することができる。					
	・律令制度の崩壊によって、班田制が維持できなくなる過程について、当時の政策や史料から読み解き、新たな土地制度について考察する。	●	●	●		・律令制度による土地支配の変化を史料から読み解き、違いを説明できる。（プリント・話し合い）
	・中央や地方での武士の登場について、背景を踏まえで、理解する。		●	●	●	・武士の登場について、当時の情勢や必要性について理解し、さらにそれを地図中の配置をふまえて今後の武家政権につなげて捉えることができる。（プリント・発問）
事後	定期考査（ペーパーテスト）の実施		●		●	・律令制度の崩壊から武士の登場までの通史を理解することができ、出来事のつながりを理論立てて表現できる。（ペーパーテスト）

6　本時の学習

（1）本時の目標

・国風文化が登場した背景を踏まえ、どのように文化が発達したのかについて知るとともに、史料を読み解くことによって、文化に触れる。

・当時の世相から、当時の人々の死生観や浄土信仰が生まれた過程について、身近な話からつなげて理解し、史料や図版を読み解いて論理立てて文章化できる。

（2）教材　　日本史Ｂ（山川出版社）、新詳日本史（浜島書店）、プリント
(当日用意する物：くずし字史料、くずし字対応表、蓮の花や蓮台の写真)

（3）本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入（3分）	前時の復習	・国風文化が生まれた時代の政治形態について、確認する。	・政治形態について復習させるために、簡単な系図を板書し、本時でならう国風文化と摂関政治を意識づけさせる。	
展開1（22分）	国風文化成立の背景とかな文字	・国風文化成立の背景に遣唐使の廃止とかな文字の登場があったことを聞き、プリントに書き込む。	・国風文化成立の背景に遣唐使の廃止とかな文字の登場があったことを説明する。また、かな文字の形についても説明する。	
	かな文字作品の読解	・グループを作り、かな文字で書かれた作品を協力して読み解き、作品名を推察する。 ・かな文字の作品の作品名を確認する。同様に次の作品も協力して、読み解く。	・３，４人のグループを作らせ、各班に土佐日記（かな文字）とくずし字の対応表を配布する。 ・グループで活動している間は適宜机間指導をして活発な議論を促す。 ・頃合いを見計らって答えを確認し、同じく竹取物語（かな文字）を配布・解答確認。	【関心・意欲・態度】（話し合い）
	かな文字文学の具体例	・かな文字文学の具体例について説明を聞き、プリントに書き込む。	・かな文字文学の具体例を板書しながら説明する。	
	国風文化発達の理由	・かな文字の登場が国風文化発達にどう影響を与えたのかについて、グループで考え、意見をプリントに書き込む。 ・指名されたグループの代表者が意見を述べ、自分の意見をルーブリックで自己評価をする。	・かな文字の特徴に気づかせるとともに、当時の政治体制とのつながりも示唆する。（漢字＝真名との比較など） ・何グループか意見を聞いた後、裏のルーブリックで各自の意見を自己評価させる。	【思考・判断・表現】（プリント）

展開２（２２分）	地獄と極楽浄土のイメージ	・地獄と極楽浄土のイメージについて思いつくことを書き出し、グループで共有する。	・地獄と極楽浄土のイメージを書き出させ、グループで情報共有を行わせる。	
	末法思想の登場	・地獄のイメージを写真で確認しつつ、当時の末法思想について説明を聞き、プリントに書き込む。適宜発問に対してグループで相談をし、答える。	・写真で地獄絵図を見せながら、当時の人々が極楽浄土へのあこがれを抱いていたことを説明する。適宜極楽浄土に関連する「蓮の花」の写真を見せて発問する。	
	極楽浄土の場所	・プリントの図版・史料から極楽浄土が存在していたと考えられる場所を推察し、プリントに意見を書く。その後グループで共有する。 ・指名されたグループの代表者が意見を述べ、自分の意見をルーブリックで自己評価をする。	・極楽浄土の場所を図版・史料から推察させ、意見を書かせる。適宜、机間指導で議論を促す。 ・何グループか意見を聞いた後、裏のルーブリックで各自の意見を自己評価させる。	【思考・判断・表現】（プリント）
	浄土教芸術	・浄土信仰の具体例について説明を聞きプリントに書き込む。適宜発問についてグループで意見交換をし、答える。	・浄土信仰の具体的事例を説明する。適宜、寄木造の登場した理由についても発問する。	
まとめ（３分）	本時のまとめ	・かな文字と国風文化のつながり、末法思想と浄土教信仰のつながりについて再度おさらいをする。 ・残った時間は、感想をプリントに記入する。	・かな文字と国風文化のつながり、末法思想と浄土教信仰のつながりについて再度説明をし、おさらいさせ、次回の授業展開の予告をする。 ・本時の感想をプリントに記入させる。	

（4）本時の評価について

・プリント・発表の評価基準【思考・判断・表現】

＜評価表Ａ・Ｂ（ルーブリック生徒用）＞

観点 レベル	Ａ：かな文字の特徴と国風文化の発達	Ｂ：極楽浄土の位置の読み取り
5	「漢字（真名）」との違いに気づき、なおかつ「かな文字」が多く使用されていた場所に気づけた。	史料や図版の具体的な箇所に印を付け、極楽浄土が存在する場所に気づけた。
3	漢字（真名）との違い、もしくは「かな文字」が多く使用されていた場所のいずれかに気づけた。	史料や図版の具体的な箇所に印を付けられていないが、極楽浄土が存在する場所に気づけた。
1	漢字（真名）との違い、もしくは「かな文字」が多く使用されていた場所のいずれかにも気がつかなかった。	史料や図版の具体的な箇所に印を付けられておらず、極楽浄土が存在する場も気がつかなかった。

＜評価表Ａ・Ｂ（ルーブリック教員用）＞

観点 レベル	Ａ：かな文字の特徴と国風文化の発達	Ｂ：極楽浄土の位置の読み取り
5	「漢字（真名）」との違いである表音性に気づき、なおかつ「かな文字」が多く使用されていた宮中について気づけている。	史料や図版の具体的な箇所（伽藍配置図西側の「阿弥陀堂」、史料中の「西向に」）に印を付け、「西」という方角に極楽浄土が存在することに気づけている。
3	漢字（真名）との違い、もしくは「かな文字」が多く使用されていた場所のいずれかに気づけている。	史料や図版の具体的な箇所に印を付けられていないが、「西」という方角の重要性に気づけている。
1	漢字（真名）との違い、もしくは「かな文字」が多く使用されていた場所のいずれかにも気づけていない。	史料や図版の具体的な箇所に印を付けられておらず、極楽浄土が存在する方角も気づけていない。

7　反省と課題

・今回は生徒に考えさせる材料を多く盛り込みすぎてしまい、時間切れになってしまった。具体的には前半の「かな文字の特徴と国風文化の発展」と後半の「極楽浄土の位置の読み取り」の二つのヤマのうち、前半は十分に生徒に活動させることができたが、後半は結論にたどり着く前に、50 分という授業時間が尽きてしまった。多くの先生方からの指摘で、今回は後半の「極楽浄土の位置」に重きを置くべきであった事に気づかされた。時間配分に留意しつつ、適切な量の教材を生徒に提示する必要があると感じられた。

・また、ルーブリックを生徒に対してきちんと示していなかったことで、ルーブリックをほとんど活用できなかったことも課題だと感じられた。今後はルーブリックをより活用できるようにしていきたい。

グループ協議用ワークシート（地理歴史科）

11 月 14 日実施

研究授業後のクループ研究協議のテーマは本時の「ルーブリック」と「教材の提示の仕方」です。この二つの観点に着目をして参観をしていただき、下の枠にご記入ください。その後の協議でご教授いただけると幸いです。なお、ルーブリックについては指導案に生徒用・教員用が、授業のワークシートに生徒用が載っておりますので、そちらを参照してください。

※「ルーブリック」と「教材の提示の仕方」について「良かった点」「改善点」「質問」をそれぞれご記入ください。

	ルーブリック　について	教材の提示の仕方　について
良かった点		
改善点		
質問		